

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	14-123	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Prevalence of alcohol-related pathologies at autopsy: Estonian Forensic Study of Alcohol and Premature Death. 法医学解剖における飲酒関連疾患の有病率：エストニアにおけるアルコールと死亡に関する法医学的検討		
執筆者		
Tuusov J, Lang K, Väli M, Pärna K, Tõnisson M, Ringmets I, McKee M, Helander A, Leon DA.		
掲載誌 Addiction. 2014 Dec;109(12):2018-26.		
キーワード		PMID
飲酒関連疾患、法医学解剖、飲酒関連バイオマーカー		25066373
要 旨		
目的： 飲酒はさまざまな重大病変を引き起こすが、飲酒と原死因との関連だけを検討すると、さまざまな疾患との関連を見落としてしまう可能性がある。そこで、本研究では、エストニアにおける法医学的検討において飲酒関連疾患の有病率を検討した。		
方法： 本研究は、2008～2009年に法医学解剖を受けた25～54歳の男性554名を対象とした横断的研究である。飲酒関連疾患の有無は、肉眼的および組織学的に検討された。飲酒関連バイオマーカーも調査した。死因に関する情報は、エストニア情報局から入手した。		
結果： 対象者の75%において、何らかの飲酒関連疾患を認めた。対象者の32%において、2つ以上の飲酒関連疾患を認めた。臓器別にみると、対象者の60.5%において肝疾患を認めた。次いで、18.6%に肺疾患、17.5%に胃疾患、14.1%に膵疾患、4.9%に心疾患、1.4%に食道疾患を認めた。飲酒関連疾患の数は、飲酒関連バイオマーカーと関連していた。アルコール性肝疾患を持っている対象者の多くにおいて、他の飲酒関連病変を認めなかった。アルコール性肝疾患の有病率が高いにも関わらず、死因がアルコール性肝疾患とされている対象者は少なかった。		
結論： 2008年から2009年の間にエストニアで法医学解剖を受けた25～54歳の男性554名における検討では、大多数の対象者において飲酒関連疾患を認めた。死因を用いた検討では、多くの飲酒関連疾患を見逃してしまう可能性が示唆された。		